

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぐりーんらいと本町		
○保護者評価実施期間	年 月 日 ～ 年 月 日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0 (回答者数)	0
○従業者評価実施期間	2026年 6月 1日 ～ 2026年 6月 30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3 (回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年6月30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用開始前の段階で自己評価を実施し、運営体制を点検している。	利用実績がない項目と、事前に確認できる体制・準備項目を区分して整理する。	利用開始後、実際の支援状況を踏まえて再評価し、継続的に改善する。
2	利用者0名の現状を明確にし、未実施項目を実施済みとして扱わない。	対象児童・保護者がいない項目は、その理由と今後の対応方針を記載する。	初回利用から記録・振り返りができるよう、運用手順を職員間で確認する。
3	利用開始後の評価・改善につなげる方針を明確にしている。	従業者間で意見を共有し、自己評価を事業所全体の改善に活用する。	利用開始後に保護者評価も実施し、利用者側の視点を取り入れる。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用児童が0名のため、実際の支援に基づいて評価できない項目が多い。	個別支援、保護者連携、関係機関連携等について実績がまだない。	利用開始後、一定期間の実績を踏まえて再度自己評価を行い、課題を具体化する。
2	保護者評価を実施できない。	評価対象となる保護者が現時点で0名である。	利用者が生じた後に保護者評価を実施し、事業所自己評価へ反映する。
3	実際の支援場面での記録・振り返り・モニタリングの運用確認ができていない。	利用実績がないため、準備した仕組みが実務上有効か検証できていない。	利用開始後、支援記録や会議を通じて運用状況を確認し、必要に応じて手順を見直す。